

新穂高ロープウェイ

新穂高ロープウェイは、奥飛騨エリアで最も人気のある観光スポットです。極端な気象条件や強風時を除き毎日運行しており、標高 2,156m の西穂高口駅まで 2 部構成のロープウェイで約 25 分で到着します。展望台からは、西穂高岳（2,909m）、槍ヶ岳（3,180m）、笠岳（2,898m）など北アルプスの山々が一望できます。

新穂高ロープウェイは当初、岐阜県と長野県を結ぶ観光ルートとして、穂高連峰を越えてリゾート地・上高地の河童橋に到達することが想定されていました。しかし、財政的、技術的、環境的な問題から、1970 年の開通時にはルートは大幅に短縮されました。それにも関わらず、1975 年までに約 100 万人の乗客が利用しました。

現在、ロープウェイの前半部分は、新穂高温泉駅（1,117m）から経由地である鍋平高原駅（1,305m）までを結んでいます。鍋平高原駅からは、ロープウェイ後半部の起点であるしらかば平駅（1,308m）まで歩いてすぐです。ここでは、日本で唯一の 2 階建て Gondola に乗り込みます。この Gondola は、できるだけ多くの乗客が窓から雄大なアルプスの景色を眺められるように設計されています。

終点には、北アルプスを一望できる大きな展望台があります。英語のキャプション付きの看板には、3 方向に見える山の名前とシルエットが表示されています。デッキの上には、暖かい季節には煎れたてのコーヒーが飲めるコーヒーショップがあり、その下にはレストランやお土産屋さん、トイレなどがあります。西穂高口駅は千石園地と尾根を分け合い、駅舎からすぐに行ける場所に花が咲き乱れる小さな森があります。建物の軒先には、夏になるとこの地域で繁殖するイワツバメという別の山の住人もいます。

山頂からの眺めも素晴らしいものですが、ロープウェイの多くの乗客は、乗り継ぎエリアの中腹にあるビジターセンターに立ち寄り、自然の展示を見たり、露天風呂にのんびりと浸かったりして楽しめます。しらかば平駅の近くには足湯があり、Gondola の発着を見ながら足をつけることができます。約 2.3km の自然遊歩道では、夏はガイドウォーク、冬はスノーシューツアーが楽しめますが、予約が必要です。しらかば平駅では、軽食やデザート、焼きたてのパンなどが販売されています。

濃飛バス新穂高線の終点に位置する新穂高ロープウェイは、車いすでも利用できます。